



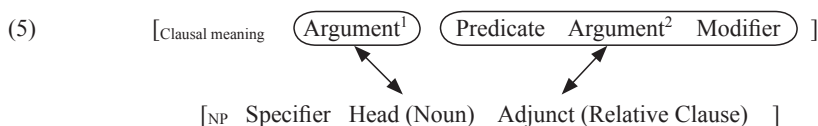
上の (3a), (3b), (3c) の斜字体部分は主要部名詞により指示されるモノを表すと言うより、そのモノが関与する事態や状況といった節的意味を表していると考えられる。即ち、例えば (3a) では、その全文が「デモ隊が警察に石や瓶、発煙弾を投げることで悲劇が始まった」という意味を表し、問題の名詞句は節的意味を表す。仮にこの名詞句がモノを表すとする、全文は「警察に石や瓶、発煙弾を投げるデモ隊で悲劇が始まった」というやや奇異な意味を表すことになる。(3b) と (3c) でも同趣旨のことが言える。

関係節付きの名詞句と節的意味の対応関係が、統語上ははっきりと示される例も観察される。次の (4a) がそうである。

- (4) a. Notice already *the confusion that is cropping up*, [...]. (Jackendoff 1977:104 [地の文])  
 b. \*Notice already that confusion is cropping up.  
 b'. <sup>OK</sup>Notice that confusion is already cropping up.

即ち、(4a) における副詞 *already* は、(4b) に示されるように、主動詞 *notice* ないし補部である *that* 節 (の内部の要素) と意味的關係を持つことは出来ない。それにもかかわらず (4a) が容認されるのは、問題となる斜字体の名詞句がモノを表すのではなく、“*confusion is cropping up*” のような節的意味を表しており、副詞 *already* は、(4b') のように、その節的意味 (の一部) と結び付いていると考えられるからである。

(3) や (4a) に例示されるような関係節付きの名詞句とそれらが表す節的意味の対応関係を、(3a) を通して検討すると、述語構造における項の一つ (*demonstrators*) が主要部名詞に対応し、その他の項 (*police*) や述語 (*pelt*)、修飾部 (*with rocks, bottles and smoke bombs*) は付加詞 (関係節) に対応している。これらの点を図示すると、次の (5) のようになる。



このように、節的意味を表す名詞句として、出来事の名詞化形と節的意味を表す関係節付きの名詞句の少なくとも二種類が英語には存在するようであるが、両名詞句の間には形式と意味の対応関係に関して典型性に差異が認められるようだ。即ち、出来事の名詞化形では、節的意味を構成する述語構造の中の述語が主要部名詞に対応しており、意味上の主要素と形式上の主要素が一致している。この点で出来事の名詞化形では形式と意味が典型的な対応関係にあると言える。しかし、節的意味を表す関係節付きの名詞句では、述語構造内の項の一つが主要部名詞に対応しており、意味上の主要素と形式上の主要素が一致しているとは言えない。ここでは形式と意味が非典型的な対応関係にある。

本稿では以下 非典型的な形式と意味の対応関係を示す、節的意味を表す関係節付き名詞句に焦点を当て、若干の考察を進める。<sup>3,4,5,6</sup> 次の第2節では、節的意味を表す関係節付き名詞句の現れる外部環境に関し、この名詞句が表す節的意味とそれを含む文が表す節的意味の間に認められる意味関係という点から整理を加える。第3節では、節的意味を表す関係節付き名詞句というような、一見特殊と考えられる構造が、なぜ英語では許されるのかという問題に対して、説明の方途を探る。

なお、節的意味を表す関係節付きの名詞句 (の一部) に関しては、このような名称は与えられてい


ないものの、福地 (1995) でも観察と分析がなされ、そこでは「概念的には節同士の接続であるものが、統語的には一つの名詞を軸に構造化する現象 (p. 166)」と捉えられている。またこのような現象は「統語的引き締め (syntactic tightening) (同頁)」とでも呼ぶべき文法上の過程を経たものであるともされる。本稿は福地 (1995) の議論や解釈とはやや距離を置き、理論上よりニュートラルな (非典型的な形式と意味の対応関係を示す) 節的意味を表す関係節付き名詞句という視点から、関連の現象に対して考察を与えるものである。

## 2. 節的意味を表す関係節付きの名詞句

節的意味を表す関係節付きの名詞句は、その統語上の性質として、次の三つを挙げることが出来る。即ち、(i) 名前が示すとおり、関係節を含み、(ii) その生起は文末に限定され、(iii) 文断片 (sentence fragment) のように単独で現れることはない。<sup>7</sup> 節的意味を表す関係節付きの名詞句が、なぜこのような特定の性質の束を持つのかに関しては、第3節で触れる。本節では性質 (ii) に関連する意味上の性質について、問題の名詞句とそれが現れる文 (以下、母型文) の間に認められる意味関係という点から、形式上の特徴にも留意しつつ、以下 検討を加える。

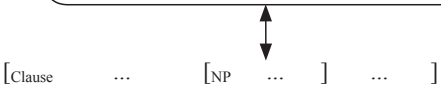
節的意味を表す関係節付き名詞句と母型文の間に見られる意味上の関係は、次の四つに分類出来るようである。即ち、(ア) 節的意味を表す関係節付き名詞句が、母型文における項に相当する場合、(イ) 節的意味を表す関係節付き名詞句が、母型文における述語に相当する場合、(ウ) 節的意味を表す関係節付き名詞句が、母型文の副詞的修飾部 (副詞的従属節) に相当する場合、(エ) 節的意味を表す関係節付き名詞句と母型文がある種の等位構造を成す場合、の四つである。以下、具体例を交えながら、これらの意味関係を順に考察する。

まず(ア)の意味関係に関して。この意味関係は次の (6a) のように図示されるが、既に観察した (3c) と (4a) (下に (6b) と (6c) として再掲) にこのような意味関係が認められる。

- (6) a. [Clausal meaning Argument<sup>1</sup> Predicate [Argument (Subordinator) Clausal meaning]<sup>2</sup> ... ]  
  
 [Clause NP<sup>1</sup> V [NP ... ]<sup>2</sup> ... ]  
 b. It's amazing *the big car he bought*. (= (3c))  
 c. Notice already *the confusion that is cropping up*, [...]. (= (4a))

上図ならびに具体例に示されるとおり、節的意味を表す関係節付き名詞句は母型文の項に相当する。なお、図に示されるとおり、意味構造において、節的意味の嵌め込み (embedding) を表す、従位接続詞に相当するような意味要素が存在する場合、その意味要素に直接対応する形式上の要素は少なくとも表面上 現れない。

次に (イ) の意味関係に関して。この意味関係はおおよそ下の図 (7a) に示されるようなもので、節的意味を表す関係節付き名詞句は母型文における述語に相当する。

- (7) a. [Clausal meaning ... [Predicate (Subordinator) Clausal meaning] ... ]  
  
 [Clause ... [NP ... ] ... ]

- b. Nick Soubiea, an American-Swedish tourist in Oslo, said he was fewer than 100 yards from the blast, which he described as deafening. “It was almost in slow motion, like a *big wave that almost knocked us off our chairs*,” he told CNN.  
([http://edition.cnn.com/2011/WORLD/europe/07/22/norway.explosion/index.html?hpt=hp\\_t1](http://edition.cnn.com/2011/WORLD/europe/07/22/norway.explosion/index.html?hpt=hp_t1))
- c. [...] the structure of (25) is simply *a head noun to which a modifying clause has been attached*.  
(Comrie 2002:30 [地の文])
- d. [...] the syntactic structure of (25) is pretty much what one sees on the surface: *a head noun* hon ‘book’ *modified by a clause* gakusei ga katta ‘the student bought [it]’.  
(Comrie 2002:30 [地の文])

具体例としては (7b) から (7d) が挙げられる。<sup>8</sup> なお, (7c) における “the structure of (25)” の “(25)” が指すものは「学生が買った本」という日本語表現で, (7c) の斜字体の名詞句は「主要部名詞に修飾節が付いている」という節的意味を表しているようである。(7d) に関しても同趣旨のことが当てはまる。

次に (ウ) の意味関係に関して。下の図 (8a) に示されるとおり, 母型文の述語構造における副詞的修飾部は, 形式上 前置詞句に対応し, 従位接続詞的な意味要素は前置詞として表現されるようである。

- (8) a. [Clausal meaning ... [Adverbial Modifier [Subordinator ... ] [Clausal meaning ... ] ] ... ]  
[Clause ... [PP [Preposition ] [NP ... ] ] ... ]
- b. The tragedy began with *demonstrators who pelted police with rocks, bottles and smoke bombs*.  
(= (3a))
- c. She washed clothes, bathed the elderly and begged for money to feed the poor, *despite mobs that mocked and even stoned her in the streets*.  
(= (3b))

具体例は既述の (3a) と (3b) (上に (8b) と (8c) として再掲) である。これらの例が示すとおり, 付帯状況や譲歩といった意味の副詞的修飾部は, 節的意味を表す関係節付き名詞句として表現され得るようだが, その他にどのような種類の副詞的修飾部が問題の名詞句として表現され得るのか, 今のところ詳細は不明である。

次に (エ) の意味関係に関して。二つの出来事が継起的に発生する場合, 意味構造においては二つの節的意味と継起順序を表す等位接続詞の意味要素 (例えば AND~THEN のようなもの) からなる等位構造が認められると考えられる。このような意味構造が節的意味を表す関係節付き名詞句を用いて表現される場合, 下の図 (9a) のような形式と意味の対応関係を示す。

- (9) a. [Clausal meaning ... <sup>1</sup>] [Coordinator AND~THEN ] [Clausal meaning ... <sup>2</sup>]  
[Clause ... [NP ... <sup>2</sup> <sup>1</sup> ] ]
- b. So we walked down to the road and hailed *a taxi that took us into West End*.  
(<http://www.e-bility.com/articles/scubadiving.php>)
- c. The band worked with fashion designers to build *a sharp and elegant image that earned them*

*the nickname “the prettiest boys in rock”.* (http://en.wikipedia.org/wiki/Duran\_Duran)

- d. Twenty-five years ago, the instrumental group Mannheim Steamroller released *an album that transformed the sounds of Christmas and changed the entire music industry.*  
(http://www.prweb.com/releases/2009/12/prweb3357804.htm)
- e. Audiences at all of these places made *valuable suggestions that have found their place, though not always their rightful place, in the final version.* (Grimshaw 1990:x [地の文])
- f. Ann defeated the World Champion in *a game that sent the sellout crowd into a frenzy.*  
(福地 1995:107)

具体例としては (9b) から (9f) が挙げられる。図 (9a) に示されるとおり、等位接続詞の意味要素は後続の出来事を表す要素と共に節の意味を表す関係節付き名詞句に対応するようである。なお、次の例が示すとおり、等位接続詞の意味要素が形式上 *then* や *however* といった副詞に対応し、節の意味を表す関係節付き名詞句の内部に現れる場合もある。

- (10) a. Many of the rescued passengers were first taken to the island by *helicopters that then returned to continue the search.* (Kono 2003:357)
- b. Dr McKeown adds that the idea of the stress management workshop is “to show people that stress is a normal part of *a healthy life which can , however, get out of control.*”  
(Kono 2003:363)

### 3. 説明に向けて

第2節の冒頭部分で、節の意味を表す関係節付き名詞句に認められる統語上の性質を三つ述べた。これらの性質は、当然のことながら、記述されるべきものではなく、説明されるべきものである。本節ではその説明の手がかりを求める。

Diessel (2004:Ch.6) では、英語の関係節構造の習得の様態が示されている。その概要は (11a) のようにまとめられ、関係節構造は (11b) のような混淆構文 (*amalgam construction*) をその萌芽として、(11b') のような述語名詞関係節構文 (*predicate nominal relative*) に始まるとされる。

- (11) a. [...] *relative clauses emerge in presentational constructions in which an intransitive subj-relative is attached to the predicate nominal of a lexically specific copular clause.*  
(Diesel 2004:148)
- b. That’s my doggy cries.
- b'. This is the sugar that goes in there.

最初期の関係節である述語名詞関係節構文の特徴は、(11a) にも触れられているとおり、文頭が *that’s* や *there’s* のような特定の語彙に限られ、これらの語彙からも理解されるとおり、述語名詞関係節構文は提示機能 (*presentational function*) を持つ。また関係節の先行詞は述語名詞であり、その述語名詞は関係節の主語に相当する。さらに関係節は語用論上の前提を成すわけではなく、断定 (*assertion*) を表す。

本稿で考察した節的意味を表す関係節付き名詞句は、このような述語名詞関係節構文からの拡張もしくは発展であると考えられる。即ち、述語名詞関係節構文は提示機能を持つが、その機能が拡張・一般化され、(9)のような節的意味を表す関係節付き名詞句が文法に導入される。このような名詞句における関係節は(9a)の図にも示されるとおり、断定を表している点に注意されたい。そののち、(8)のような節的意味を表す関係節付き名詞句を経て、(6)と(7)のような節的意味を表す関係節付き名詞句も文法に導入されると考えられる。なお、次の(12)の実例に示されるように、成人の文法においても、述語名詞関係節構文は保持されている。

- (12) a. We offered to settle before the action for a clarification [of the article]. Then we had *a mediation that failed*. (<http://www.nature.com/news/2010/100420/full/news.2010.192.html>)
- b. Why do certain ‘ugly’ shoes become fashionable? Worishofers are the latest, but from Dr Scholl’s to Crocs, there is always *an ugly shoe that becomes trendy*.  
(<http://www.guardian.co.uk/lifeandstyle/2010/jul/22/worishofer-ugly-shoe-fashionable-crocs>)

節的意味を表す関係節付き名詞句が、このような過程を経て文法に導入されたとすると、これらの名詞句が持つ統語上の性質は規定するまでもなく、導出される。即ち、性質(i), (ii), (iii)はすべて述語名詞関係節構文の性質を引き継いだものと言える。このような考え方が正しければ、問題の性質は説明されたことになる。

なお、最後に付言すべきことがある。第1節の(5)に示されるとおり、節的意味を表す関係節付き名詞句は、その形式と意味の対応関係が非典型的であるとしたが、習得の過程を考慮に入れた本節のような分析のもとでは、この点は再検討を要す。詳細は別の機会に譲るが、(9)のような基本的な、節的意味を表す関係節付き名詞句における関係節は前提ではなく断定を表し、独立文のような機能を持つのであるから、(5)のような対応関係は非典型的ではなく、むしろ典型的であると言える。

## 注

<sup>1</sup> 名詞化形のすべてが出来事を表すわけではない。行為者を表す名詞化形(例えば *planner, analyst*)、製品や結果を表す名詞化形(例えば *product, drawing*)のように、名詞化形はそれが表す意味(と形式上の特徴)に基づき、下位分類される。

<sup>2</sup> 節的意味には既述の述語構造に関する意味の他に、論理構造・情報構造・発話行為に関する意味も含まれる。

<sup>3</sup> Baker (1968) や Grimshaw (1979) 等では、下の斜字体に例示されるような名詞句を含む文は潜伏疑問文 (*concealed question*) と呼ばれ、このような名詞句は表面上の形式にもかかわらず、間接疑問の解釈を受け得るとされる。

- (i) a. John refused to tell the police *the fellows who had been involved*. (Baker 1968:83)
- b. James figured out *the plane’s arrival time*. (Baker 1968:83)
- c. I can’t remember *the kind of pizza she likes*. (Huddleston and Pullum 2002:976)

このような名詞句は、間接疑問というような節的意味を表すとしばしば考えられているが、名詞句と



いう形式どおりにモノを表すとも考えられる。従って、(ia) や (ic) における問題の名詞句は一見 節的意味を表す関係節付きの名詞句のようにも映るが、本稿の考察の対象外とする。

<sup>4</sup> 次のような動名詞は節的意味を表すものの、名詞句ではないと考えられる。

- (i) a. There is no point in *breaking the seal*. (Huddleston and Pullum 2002:1187)  
b. He was expelled for *killing the birds*. (Huddleston and Pullum 2002:81)

動名詞は統語上の分布が名詞句と重なる部分が多いため、しばしば名詞句とされるが、動名詞全体の統語範疇が名詞句であるかどうかは不明であり、また内部の統語構造には主要部名詞が含まれていないため、動名詞は名詞句ではないと言わざるを得ない。Huddleston and Pullum (2002:1190) では動名詞全体の構造は節とされている。なお、次のような、時として(名詞的)動名詞と呼ばれる構造は、動名詞ではなく、名詞(句)である。

- (ii) a. She had witnessed *the breaking of the seal*. (Huddleston and Pullum 2002:1187)  
b. She had witnessed *the killing of the birds*. (Huddleston and Pullum 2002:81)

本来の動名詞と上のような(名詞的)動名詞の差異に関しては、谷(2011)を参照されたい。

<sup>5</sup> 節的意味が名詞句で表されることがある一方で、モノが節に実現されることはないようである。その理由は節的意味とモノにおける意味構造上の違いにあると考えられる。即ち、節的意味はその内部構造として必然的にモノやモノ同士の動的あるいは時間的關係などを含むが、高次レベルの概念操作ではそのような内部構造を捨象し、一つの(大きな)モノとして扱うことが可能である。一方、動的あるいは時間的關係などの内部構造をそもそも持たないモノに対して、そのような内部構造を与えるような概念操作を施すことは不可能であると考えられる。

<sup>6</sup> 福地(1995:33)では、次の(i)のような縮約関係節を含む名詞句でも、節的意味(福地の用語では潜伏命題)を表すとされる。

- (i) a. ... the affair ended with *a police officer sentenced to four years in prison*. (福地 1995:33)  
b. On July 27 valley residents woke up to *a huge column of smoke rising from the wilderness*. (福地 1995:33)

しかしながら、(ia)の斜字体部分は名詞句ではなく、付帯状況を表すwithに導かれた小節的な構造を持つと考えられ、また(ib)の斜字体部分は名詞句ではあるものの、節的意味を表しているのではなく、現在分詞が先行の主要部名詞を修飾している構造を持ち、名詞句全体としてモノを表していると考えられる。

<sup>7</sup> 性質(ii)として、節的意味を表す関係節付き名詞句の生起環境は文末に限られるとしたが、より正確には「その生起環境は文末もしくは文末相当の位置に限られる」と述べる必要があるようだ。この点は次の例が示すとおりである。

- (i) As with *pictograms which began as representations of objects and were gradually simplified to a few*

*strokes which became symbols for sounds*, so the words that have come down from remote times must differ greatly from their earliest forms. (福地 1995:31)

問題となる名詞句は文末ではなく、文末に相当する位置に現れている。当然のことながら、文末に相当する位置とは何であるのか、今後検討を加える必要がある。

<sup>8</sup> 本文中の例文 (7c) と (7d) は田村隆夫氏の指摘による。

#### 参考文献

- Baker, Carl L. (1968) *Indirect Questions in English*, Doctoral dissertation, University of Illinois.
- Comrie, Bernard (2002) “Typology and language acquisition: the case of relative clauses,” *Typology and Second Language Acquisition*, ed. By Anna Giacalone Ramat, Mouton de Gruyter, Berlin.
- Diessel, Holger (2004) *The Acquisition of Complex Sentences*, Cambridge University Press, Cambridge.
- 福地肇 (1995) 『英語らしい表現と英文法』, 研究社, 東京.
- Grimshaw, Jane (1979) “Complement selection and the lexicon,” *Linguistic Inquiry* 10, 279-326.
- Grimshaw, Jane (1990) *Argument Structure*, MIT Press, Cambridge.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Jackendoff, Ray (1977) *X-bar Syntax*, MIT Press, Cambridge.
- Kono, Tsuguyo (2003) “Nonrestrictive restrictive relative clauses in English,” *Empirical and Theoretical Investigations into Language*, eds. by Shuji Chiba et al., Kaitakusha, Tokyo.
- McCawley, James D (1998<sup>2</sup>) *The Syntactic Phenomena of English*, Chicago University Press, Chicago.
- 谷光生 (2011) 「英文法における V-ing の位置」, 『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要』, 第34号, 283-289.